

➤ 28日 火曜

ヨハネ



8:12 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

8:13 すると、パリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分で自分のことを証ししていません。だから、あなたの証しは真実ではありません。」

8:14 イエスは彼らに答えられた。「たとえ、わたしが自分自身について証しをしても、わたしの証しは真実です。わたしは自分がどこから来たのか、また、どこへ行くのかを知っているのですから。しかしあなたがたは、わたしがどこから来て、どこへ行くのかを知りません。」

8:15 あなたがたは肉によってさばきますが、わたしはだれもさばきません。

8:16 たとえ、わたしがさばくとしても、わたしのさばきは真実です。わたしは一人ではなく、わたしとわたしを遣わした父がさばくからです。

8:17 あなたがたの律法にも、二人の人による証しは真実であると書かれています。

8:18 わたしは自分について証しする者です。またわたしを遣わした父が、わたしについて証ししておられます。」

8:19 すると、彼らはイエスに言った。「あなたの父はどこにいますか。」イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしも、わたしの父も知りません。もし、わたしを知っていたら、わたしの父をも知っていたでしょう。」

8:20 イエスは、宮で教えていたとき、献金箱

の近くでこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

イエス様に敵対していた人々は、何を聞いてもそれを否定しようとしていました。イエス様が「世の光」であったなら、彼らにとっては都合が悪いのです。パリサイ人は律法に安住してその利権をむさぼっていたので、イエス様の教える真理は彼らの立場を危うくするのです。

確かに証言は複数あった方が、信頼できますし、聖書でもそのように書かれています。だからといって1人の証言が、常に間違いであるというわけではありません。それは全くの詭弁です。

そのように人間は神様に従いたくないと思うと、自分の都合の良い理屈を造ってしまいます。クリスチャンであってもそのようなことがないか、考えてみる必要はありそうです。

イエス様は「父がわたしについて証ししておられます。」と言われます。イエス様と御父は一体です。そのような愛のすばらしい交わりに入れていただいた私たちですから、みこころに従うときは喜びと安心を持ちましょう。安心して従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

